とっとり産業フェスティバル2010　ポスター発表

テーマ

循環型社会構築に向けた市民活動につなげるための環境教育の推進と課題

発表者

○衣川　益弘　鳥取環境大学環境情報学部　環境政策経営学科　教授

概　要　地球温暖化を始めとする地球環境問題とりわけ循環型社会構築に向けた行動が、求められている。しかしながら、多くのデーターでは、日本人は、認識をしているものの、実践につながっていない。様々なメディアで環境問題が取り上げられ、環境教育が実施される中、企業は、EMSをはじめ、環境問題に取り組み成果をあげつつある。一方、市民は、レジ袋の事例のように、その取り組みは遅々として進まない。その原因の1つとして、環境教育のあり方に注目して調査研究を行った。

『目的』

環境教育の現状と課題に関しての調査研究をすすめ、有効な環境教育のあり方を提案することで、環境への行動が加速されることを目的とする。

『方法・手法』

○企業の環境教育の実態調査（アンケートを重点に実施）

・大手企業と中小企業の比較　・環境教育の目的と内容及び有効性調査

・各都道府県における実態把握（一部）　・国が進める環境教育と学校での環境教育

○地方行政が進める環境教育の実態と問題点（アンケート、環境白書等の資料）

・各都道府県における実態把握　・市町村の実態　・各行政の役割　・消費者の意識

○全体のまとめ

『結果』

○効果的な環境教育の実施に当たっての留意点

①総合的であること(環境問題の複雑性)　②目的を明確化すること(EMS教育等は実践的)

③体験重視(幼児期の体験の重要性)　④足元から地域からの広がり(ライフスタイル変革、身近な問題への実践)　⑤行動につなげる環境教育(いかに生きるかが題材)

○特に行動につなげる環境教育の要件

①正しい知識を持たせる(興味をわかせる)　②意欲付け(社会にニーズ、価値観等)

③目的の明確化(何に向かうのか)

○このためには

・判断力を養成する(総合的、どんな行動をとるべきか)　・行動(・しつけ・訓練・正しい知識の上に立ち、自らの判断でライフスタイルの中で行動できる)　・見直し(より効果的な行動につなげる)

『まとめ』

実践力教育での移行：従来の**既存価値伝達型教育**→**価値創造型教育**にカリキュラム内容を見直す

	（目的）	（教える側）	（学ぶ側）	（伝達方法）	（学習内容・教材）	（評価）
伝達型	**概念学習**→	**知識・習慣**	→ **権威的**	**受動的**→	**一方的**→	**価値概念、過去の知識**→ **客観的**
創造型	**体験学習**→	**態度・行動の変容**	→**相互的**	**能動的**→	**交流的**→	**態度価値、体験、失敗に学ぶ**→ **主観的**

【ライセンス情報】 発明の名称：　　発明者：

【産業界へのメッセージ】実践的な教育・環境教育の実施の計画に当たって、知識だけでなく行動につなげる場合に参考にしてください。

連絡先：　鳥取環境大学環境情報学部環境政策経営学科　教授　衣川　益弘

鳥取市若葉台北1－1－1　　TEL. 0857－38－6757　E-meil:kinugawa@kankyo-u.ac.jp

分　野	環境教育	プレゼンタイム	有　(無)